# 扇の松の木の下で

## ～花水をもっと「わたしたちのまち」にと

第４号
2003年2月9日
編集発行：花水福祉コミュニティづくりグループ「チーム土と風」

**花水の人々を紹介するコーナーの第 2 回目は、「NPO 法人みんなでつくる平塚」で活躍中の桃浜町在住の木谷正道さんに登場していただきました。聞き手は、私たちのメンバー中島民恵子さん**

**中島：**木谷さんは、「NPO 法人みんなでつくる平塚」をやっていらっしゃいますが、そこに至るまでの過程を教えてください。

**木谷：**東京で住民の自治に関わる仕事をずっとしてきたのですが、自分自身は全く地域に関わっていなかった。10 年前、小学校時代に決闘をした相手（笑）から電話がかかってきて、「もっと自分の地元に関心を持たなくてはいけないのではないか」と言われ、頭をガーンと殴られたようなショックを受けました。

### *平塚にはいろんな人がいた*

９４年秋に、平塚で震災フォーラムを開催しました。４か月後に、阪神･淡路大震災が起きました。あのときの思いを僕は忘れません。９８年の暮、地域に密着して活動している方々に出会いました。「ログハウス DO」(端山慶子代表。公所にあり、現在は「みんなでつくる平塚」の拠点)にお邪魔して話をしたり、おいしい手料理を頂いたり、わいわいやっているうちに、「みんなでつくる平塚」という団体ができました。平塚にはいろんな人がいるなあと思いました。僕のような土日市民（ウィークデーは職場人間で、土日だけ地域に関わる）だけでなく、全日市民の方々とも一緒にやっていけるようになったというのは大きな変化です。インターネットで情報共有できるのがよかったですね。

昨年秋、NPO(非営利活動法人)にしようという話になりました。でも、そう簡単ではない。活動資金をどう集めるかを話しているうちに出てきたのが「トークと弾き語り」のアイディア。７００人の中央公民館ホールで、入場料を取れば、ＮＰＯの財政が確立すると（笑）。出演者は全て仲間なので、コストがかからない。最初は皆、「マユツバ」「トラタヌ」と言っていたのですが、やがてワクワクしてきて、最後はみんなが頑張りました。

1 月 11 日に第一回の「市民がつくる福祉～心の唄」を開きました。４２０人の参加者があり、イベントの質としては相当に高いものになったと思います。

**中島：**私たちのグループでも、土日市民と全日市民とのつながりというのは大きな問題だと思いますが、何か秘訣がありますか。

**木谷：**一言で言うと、楽しさでしょうね。参加している人たちが楽しいかどうか。義務感でやっていると、疲れてしまう。不満も出てくるし、やっている当人が楽しくない。

**中島：**私も湘南台で「こうさ展」という展覧会をやったことがあります。世代を超えた人たちが集まったら楽しいだろうと考えてやったんです。準備も当日も走り回ってとっても大変だったんですが、本当に楽しかったんです。画廊なのにコタツを置いて話せるスペースを作ったり、デジタル書道体験をできるようにしたり。そのとき思ったのは、楽しさって残るものだと思いました。

### *楽しさが最終目的ではないか*

**木谷：**「楽しく生きている」というのは最終目的に近いのではないかなと。世の中には複雑な制度や組織がありますが、経済も環境も全部ひっくるめて、人間が楽しく生きていくためにあると言ってよいと思います。

**木谷正道さん**

1947 年、平塚生まれ。1971 年、東京都庁入庁。現在情報企画担当部長。

「NPO 法人みんなでつくる平塚」の設立に参加。1 月 11 日に開催された設立記念イベント「市民がつくる福祉～心の唄」では<まちの音楽家たち世話人>として弾き語りを行い、好評を博した。桃浜町在住。父親は囲碁の木谷實九段。

**中島：**私は「福祉コミュニティづくり」ということで始め参加したときは何か成し遂げなくてはならないと思っていたんです。コミュニティについての文献も読みましたし勉強もしていたのですが、実際に見てみると全然違いました。広がり方などもすごいなと思いました。以前<サロン>(サロンチームが開催している地域を語るお茶飲み会)に来ていただいたことがありますが、<サロン>はいかがでしたか。

### *気が付くとコミュニティはすごい*

**木谷：**僕は、花水にこんな活動があることを知らなかったんです。小学校の同級生の椎野さんに誘っていただきました。びっくりしたのは、若い方がたくさんいたこと。皆さん、楽しく、和やかな雰囲気でした。花水を含め平塚はもともと素敵な地域で、人と人のつながり方がいい。東京から近すぎず遠すぎない。東京からもっと遠いと、新しい人を寄せつけなくなってしまいそうだし、あまり近いと新しい関係ばかりになってしまう。

「みんなでつくる平塚」の仲間も同級生が多いです。その周りにどんどん人間関係がふくらんでいく。ご近所付き合いもある。コミュニティ活動がしやすい場所なんですね。それに気付かなかったのは、自分が地域を見ていなかったから。土日はくたくたになって寝ているだけでしたし。そんな僕が今、地域とつながりを持っているのは不思議なことです。

実は、僕は福祉にも関心がなかったのです。大事だということは分かるのだけれど、重そうに見えた。2001 年７月に、自宅のすぐそばに「ひなたぼっこ」という宅老所（民家改修型のデイセンター）ができました。ボランティアの会員登録をしたら、「ちょっと唄って」と（笑）。

初めてお年寄りの前で唄って、がちがちに緊張していたのだけれど、皆さん、すごく真剣に聞いてくれた。それが嬉しくて、続けて唄っているうちに、唄がうまくなった（笑）。

**中島：**いい聴衆に恵まれたんですね。いろんな方がいらっしゃってますよね。

**木谷：**落語家とか、日本舞踊とか。皆が喜んでくれるのが、練習にとっては最高の条件です。1 月のイベントにはバイオリンや尺八も応援に来てくれました。楽しいから来てくれる。山登りを考えれば、仕事だったらやってられないような重労働でも、自分の意思でやれば、楽しみに変わる。

**中島：**木谷さんはお仕事で商店街のことなどやっていらっしゃいますが、それが平塚の活動に関係していますか。

**木谷：**全部つながっています。ごみの有料化のときに、商店に負担をお願いする立場で関わりました。それまでは商店街には興味はなかったのです。僕は行政中心の考え方で、まちに力はないと思っていました。でも、まちには力がうんとあって、ちょっと組み合わせればどんどん強くなる。その時の早稲田商店会長の安井さんたちとの交流が、今に生きています。「まずは自分が動いてみる」というのも安井さんに言われたことです。「自分たちが社会だから、自分たちが動けば誰も止められない」と。

### *市民がつくる福祉－ひなたぼっこ*

「ひなたぼっこ」のワーカーも利用者の方々も、皆、楽しそうな、とってもいい顔をしています。ワーカーは、普通は緊張した、疲れた顔をしているものです。20 代のワーカーが４人もいます。長野県からわざわざ来てしまった人もいる。雇用が発生しています。常勤・非常勤あわせて 18 人。雇用対策で行政はいろんなことをやっていますが、小さな施設が、公費なしで雇用を生み出したというのは、本当にものすごいことです。

少しずつ花が咲き広がっています。昨年 10 月に、「笑顔」という別のＮＰＯ法人が、やはり民家改修型のデイハウス TOMO をつくりました。2003 年２月には、ひなたぼっこの２号店ができると聞いています・・・速い動きです。

なぜ、こんなことができるかというと、まず、施設は住宅として既にある。自分らしく、楽しく働きたい人はたくさんいる。そして、

介護の需要は山ほどある。これで、事業成立の条件がそろいます。

今までは、高齢者介護は財政を圧迫する問題だと考えられてきました。これからは、地域・民間がまず担い、行政がそれを支援する方向に変わるでしょう。そうしないと、財政がもたない。福祉だけでなく、あらゆる分野で同じような話が進みます。これが、大きく言うと日本再生の本流になるのでしょう。行政はスリムになり、経済活性化の条件が整います。誰かにお願いをするのではなくて、まず、自分たちでやってしまうというのが、実は一番確かで、速い道だと思っています。

**中島：**今後の展望はいかがですか？

**木谷：**5 月 31 日に第 2 回のイベント「七夕祭とまちづくり」を開きます。「七夕は平塚の大切な資源なので、市民の側が、これからどうしていけばよいかを考えよう」、というのが趣旨です。商店街の振興をからめながら、まちづくりとして市民がお祭に関わっていく。日本中で、商店街の衰退が心配されていますが、七夕に一所懸命取り組んでいる人たちと交流し、一緒に行動して、まちの活性化を実現できたらいいなと思っています。

８月には第 3 回、「大地震を迎え撃つ」。地域防災を盛り上げていかないと、本当に大変なことになってしまう。地震は恐ろしいです。そんなところに、花水小学校 PTA の広報の方たちと出会って、花水で地域防災を考えていきたいというお話を伺いました。

**中島：**それに「花水コミュニティづくり」はどう関係していけるのでしょうか。

**木谷：**私が住んでいる桃浜町には、ひなたぼっこ、地域住環境改善センターなどのＮＰＯがあります。そのほかにも、色々な面白い人たちがいます。資源が集中している感じがあります。今まではお互いに見えなかった方々が、急速につながりだしている。自分にできることを、自分にできるようにやっている。元々あった素敵なものに、新しい人がどんどん入ってくる、いいつながりができています。

僕は花水川が大好きです。小さなときは泳いだ。子ども時代の思い出はこの地域と共にありました。この年になって、ようやく地元に戻ってきた感じがあります。FUSION

**中島民恵子さん(福祉村を考える会、サロンチーム、チーム土と風)**
1979 年（昭和 54 年）愛知県生まれ。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士 1 年。全国痴呆性高齢者グループホーム協会でも活躍中。

長池という多摩ニュータウンのＮＰＯのメンバーがひなたぼっこにきたとき、意見交換をしました。「ここにはコミュニティが最初からあっていいですね、うらやましい」と言われた。地元は楽しいし、温かいし、素敵なんだと分かってくると、これが社会の本当の力なんだと思いました。まちづくりも防災も教育もみんな同じ、地域の力、まちの力が大事です。こうしたコミュニティづくりをご一緒にやっていければいいなと思います。

(於:花水公民館　記録:小川久美子)

## 花水福祉コミュニティづくりとは

地域福祉や地域づくりに興味のある 30 名が一昨年 8 月から活動を開始したもので、今年は 6 チームに分かれて活動を進めています。メンバーも随時募集中です。興味のある方はお気軽にお電話で。

○「**話花(わっか)(WAKKA)サロンチーム**」では、地域のことを気軽に話せるお茶飲み会を月 2 回花水公民館で開いています。誰でも参加できるのでご連絡下さい。次回は 2 月 25 日(火)14:00-です。(佐々木節子　tel 34-3482)

○「**福祉村を考える会**」 パソコンが置かれることになったのに、使われてないとのことです。①もっとコンピュータを使う人を専従にするのは?②開村日は週 5 日午後にし、専従のコーディネータとするのは?③「福祉村」という看板を PR のためにも南部福祉会館に置くのはどうか?----これら 3 点を福祉村が活発になるための意見として出し合い、話し合いました。問題点も多いのですが、いろいろアイデアを出してください。(宮坂由美子　tel 20-1737)

○「**ビデオ上映会**」は、11 月 30 日の上映会に引き続き福祉や少子高齢化に関する作品の紹介や上映会を催したいと考えています。「**ボランティア育成チーム**」は福祉体験のほかにも福祉についてのアイデアを多方面に広げたいと思っています。(鈴木憲子　tel 31-9619)

○「**マップづくりチーム**」では、まもなく花水福祉マップが完成します。乞ご期待。(林田直子　tel 24-9840)

○そして、この情報誌を作成しているのが「**チーム土と風**」です。(平田実　tel 32-6870)

# 各地のイベントで話してきました

◆葉山町／10月28日

葉山町の社会福祉協議会より、住民参加の地域福祉計画を作るため、先輩格のモデル地区の花水コミュニティの話を聞きたいとのことで行ってきました。しかし、我々も2年目のまだまだ未完成の段階で、むしろ地域福祉を進めていく上の、悩み、難しさは、共通の感じでした。年齢の違いによる考え方の違いや住民の意識の低さを強く訴えていた町でした。その点、平塚のほうが、人々の性格か、町の雰囲気か、まだ、開放的で庶民的な地域なので、進めやすいと感じました。別れ際に、お互い協力し合って、やってみましょう！ 福祉情報もその後送っていただいたりして、仲良くなってきました。(宮坂)

◆平塚市／11月13日

中央公民館で行われた市役所主催の「福祉フォーラム」にパネリストとして参加しました。みんなで支えあう地域づくりを考えようという趣旨で開催されたものです。

当日は山田真知子さんによる講演も行われ、「地域福祉には相互扶助の気持ちが大切であり、行政任せにせず、自分達で積極的に動いていかなければならない」と仰っておられ、これから地域福祉の活動を進めていく上での参考になりました。

パネルディスカッションでは、福祉に関わっている団体が連携して、なかなか声を出すことの出来ない方々に支援の手を差し伸べていく必要があることを強く感じました。花水福祉コミュニティの魅力は、参加者が自由な雰囲気の中で、これからの福祉や花水地区の課題について真剣に語りあっている点だと、会場の皆さんに報告して参りました。会場からは　花水福祉コミュニティに対する質問もあり、平塚市の皆さんの私達の活動に対する興味の深さが感じられました。 (林田)

◆県平塚保健福祉事務所／11月5日

平塚保健福祉事務所が主催した「地域福祉計画研修会」に荻野俊夫さん、高橋龍正さんと事例報告者として参加しました。主な活動内容は事前に説明があったので私たちの思いを中心に話しました。「年齢や興味が多様なメンバーだからこそ面白いし、地域に還元する武器をたくさん持っている」「新しい輪をどう広げるかが課題」など、お二人の発言に私も活動への意欲を新たにしました。(小川)

◆横須賀市／10月11日

横須賀市主催の「地域福祉推進シンポジウム」に参加致し、福祉を理解する事によって不可能が可能に変えられる、グループ活動の展開を報告して来ました。(鈴木)

バックナンバーあります
第3号(2002年11月)
荻野俊夫さんインタビュー(聞き手:小川久美子)

## 風の声

**最近、新聞や雑誌などで“地域通貨”という文字をよく目にすることが多くなりました。**

**“地域通貨”をご存知ですか？“地域通貨“にはいろいろな形態があるのですが、基本的にはその地域（コミュニティ）でのみ使えることができる通貨です。ただ、通貨といっても、実際のお金ではなく独自のコインやカードや通帳などを使います。お互いが出来ることを交換しながら関係性を広げていきます。**

**「福祉村を考えるチーム」では、福祉村でサービスを受ける人が無料では利用しにくく感じるのでは、という疑問のもと地域通貨の可能性を勉強しました。実際に、福祉村に地域通貨をあてはめるためには、という考えだけでなく地域通貨を利用してどのようなことを実現したいのか、できるのかを話合えたことはとても有意義でした。**

**何かちょっと困ったことがある時に、相談できる・手をかしてもらえるといった場所があることは心強いことだと思います。花水地区においても、顔の見える関係作りが今後さらに広がっていくと良いなと思います。(中島)**

＜編集後記＞

●「みんなでつくる平塚」のイベントに参加しました。会場には多くの市民活動を実践している方が集まり、大盛況でした。平塚には地域のことを真剣に考えている人が多いことに驚き、その人たちの素敵な笑顔が印象に残りました。花水のなかにも、私が知らない地域に貢献している素敵な人が、多くいるはず。花水地区にいる縁の下の力持ち的な人を、この「土と風」では紹介していきたいと思います。もしかしたらあなたのお隣さんが･･･。(檜山)

★インタビューで木谷さんが、「ボランティアの原点は楽しみであり、楽しくなければ」と強調されたことが印象に残りました。最近他の地域の勉強会に出席した報告も掲載しました。このような交流や連携により、私たちの活動のレベルアップにつなげたいと思います。(高橋)

＜編集・発行＞
花水福祉コミュニティづくりグループ「チーム土と風」
○グループホームページ http://y7.net/hanamizu/
○e-mail　hanacrosslove@anet.ne.jp
○〒254-0821 平塚市黒部丘 2-10　シティハイム花水 104
tel/fax:0463-32-6870(編集担当:平田実あて)